



 **コスモ石油**

特集

新たな収益の柱へと 着実に成長を続ける 風力発電事業

C's MAIL
シーズ・メール

Vol.83

株主通信

2017年度 第2四半期 事業のご報告
平成29年4月1日～平成29年9月30日



コスモエネルギーホールディングス株式会社



石油開発

長年の信頼関係を築いてきたアラブ首長国連邦(UAE)・アブダビ首長国、カタール国において原油の自主開発・生産に取り組んでいます。



石油精製・販売

産油国から大型タンカーで輸入した原油は、製油所でガソリン、灯油、軽油、重油などに生まれ変わり、全国のサービスステーションや工場などの需要家に販売しています。

～ココロも満タンに～
コスモエネルギー
グループの事業



石油化学

ポリエステル繊維やペットボトルの原料であるパラキシレン、ミックスキシレン及びプラスチックや合成ゴムの原料であるエチレンやプロピレン等の製造に携わっています。



再生可能エネルギー

エネルギー供給の多角化に向け、再生可能エネルギーに注力しています。グループ会社のエコ・パワー（業界シェア：発電能力国内第3位）では、風力発電事業の拡大を図っています。

数字で見るコスモエネルギーグループ

売上高



2017年度 第2四半期累計

1兆**1,343**億円

2017年度 業績予想

2兆**4,320**億円

経常利益



2017年度 第2四半期累計

434億円 **在庫影響
除き** 493億円

2017年度 業績予想

800億円 **在庫影響
除き** 900億円

在庫影響とは

民間の石油会社では、法律に従って石油を70日分備蓄する義務があるため原油価格や為替の変動は、売上原価に大きな影響を与えます。この影響を除いたものを「在庫影響除きの利益」として開示しております。

原油埋蔵量



154.0百万バレル
※確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計
(2016年12月末時点)

生産エリア

アラブ首長国連邦 (UAE) ・
アブダビ首長国、カタール国

原油生産数量



日量 38,100バレル
(2017年度第2四半期実績)

※生産数量は、主要開発会社であるアブダビ石油・カタール石油開発・合同石油開発の生産数量の合計
※各社12月決算会社のため、生産期間は1-6月で計算
※コスモエネルギーグループの出資比率: アブダビ石油51.5%、カタール石油開発75.0%、合同石油開発45.0%

製油所稼働率



94.7%
(2017年度第2四半期実績)

製油所

千葉、四日市、堺

サービスステーション数・コスモスマートビークル累計契約台数



サービスステーション数^{*1}

2,928箇所

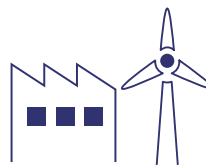
コスモスマートビークル

累計契約台数^{*2}
41,432台

※1 コスモエネルギーグループ給油所数 (2017年9月末時点)

※2 個人向けカーリース (2017年9月末時点)

製油所及び風力発電所

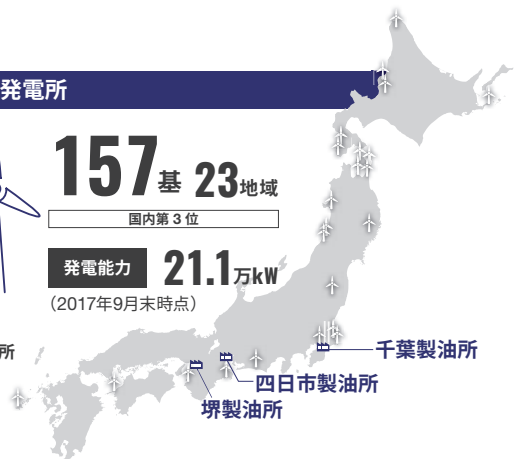


157基 23地域
国内第3位

発電能力 21.1万kW
(2017年9月末時点)



風力発電所



千葉製油所

四日市製油所

堺製油所



当社グループ独自の施策を 着実に実行し、 事業環境の変化を乗り越え、 未来を切り開く

競争力を高め、 石油業界での存在感を高めていく

コスモエネルギーグループを取り巻く環境は、業界再編やエネルギー供給構造高度化法対応等により大きく変化しています。こうした変化の中で当社グループでは事業毎に、様々な成長施策を着実に実行しております。

石油開発事業では、長年にわたり築いてきたアブダビ首長国との友好関係を基盤として、2012年に利権を取得したヘイル油田が、5年の開発期間を経て2017年11月に生産を開始しました。ヘイル油田はアブダビ石油の既存油田と同程度の生産数量が見込まれており、来年初めからフル生産が見込まれています。今後は投資回収を進めるとともに当社グループの新たな収益基盤として育てながら、アブダビとの信頼関係をより強固なものにしていきます。石油事業では、四日市製油所における昭和シェル石油グループとの提携、千葉製油所におけるJXTGエネルギーとの共同事業(JV)シナジーにより、石油事業の核である製油所の競争力を強化しています。同時に、キグナス石油との資本業務提携により3年後を目途に石油製品の供給を開始します。全国に約500カ所あるキグナス石油の系列

2017年11月9日

代表取締役社長 **桐山 浩**

給油所へ販路を拡大することで、安定供給先の確保や製油所の高稼働維持につながると期待しています。石油化学事業では、昨年、連結子会社化した丸善石油化学と共に、石油化学事業と石油事業の一体運営を進めてシナジーを生み出し、競争力強化を図っていきます。再生可能エネルギー事業では、10月に酒田港宮海・大浜風力発電所が運転を開始し、2017年度下期には石狩湾新港風力発電所が運転を開始します。更に現在策定中の次期中期経営計画期間では発電能力を約2倍に増強し、安定した収益源の拡大に努めてまいります。

市況が改善するなか、製油所の高稼働などにより、大幅増益を達成

2017年度第2四半期の在庫影響を除いた連結経常利益は、前年同期比479億円増益の493億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同181億円増益の224億円となりました。石油事業では、製油所における安全操業と高稼働の実現に加えて、国内需給の改善により適正マージンを確保できたことが収益性改善につながりました。石油化学事業は、市況が堅調に推移するなかで丸善石油化学の定期修繕影響解消に伴い販売量が増加し、石油開発事業も原油価格の上昇により増益となりました。通期業積見通しにつきましては、第2四半期決算の実績を反映し、上方修正をいたしました。在庫影響を除いた連結経常利益は900億円(期初見通しは640億円)、親会社株主に帰属する当期純利益は430億円(期初見通しは200億円)を見込んでいます。

引き続き財務体質の強化に努める

収益の拡大に伴って第2四半期は営業活動によるキャッシュ・フローが大きく改善し、フリーキャッシュ・フローの黒字化を

果たしました。財務体質も改善し、9月末のネットD/Eレシオは前年度末比0.4ポイント改善し3.2倍、自己資本比率は同0.9ポイント上昇し11.7%となりました。引き続き財務体質の改善に取り組み、今年度末のネットD/Eレシオは3倍以下を見込んでおります。来年度以降は、大型プロジェクトへの投資が一巡し設備投資額が大幅に減少する一方で、ヘイル油田のフル生産による生産量増加や千葉JVのシナジー効果等が見込まれ、キャッシュ・フローの更なる改善を見込んでおります。次期中期経営計画においては、再投資可能な収益力と十分な自己資本を確保し、早期にネットD/Eレシオ2倍以下をめざしていきます。

株主の皆様へのメッセージ

2017年度の期末配当は前年度と同額の50円を予定しています。経営者として株主還元の重要性は強く意識しており、財務体質の改善を優先しながらも、収益力や財務状態などに応じた持続性のある安定配当を行ってまいります。当社グループは、お客様の暮らしを支える製品・サービスを安全かつ安定的に供給することで利益を上げ、様々な活動を通じて環境や地域社会に貢献することで、メッセージスローガンである「ココロも満タンに」を体現する企業でありたい、そうすることで株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーにとっての価値を高めていきたいと考えています。株主の皆様には当社グループの経営理念をご理解いただき、未永くご支援いただけますようお願い申し上げます。

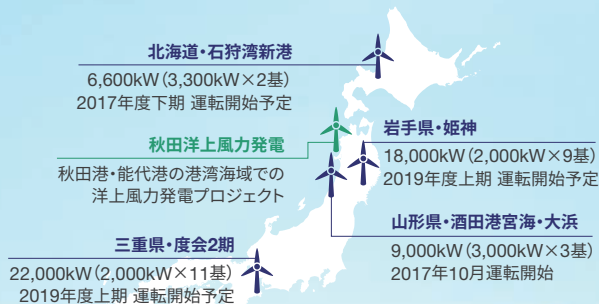
2017年度
1株当たり
期末配当金(予定)

50円

新たな収益の柱へと 着実に成長を続ける 風力発電事業

当社グループでは、
2010年に風力発電事業のパイオニアである
エコ・パワー社をグループ化してから、
風力発電事業を成長分野の一つと位置付けて
事業拡大を図っています。

風力発電プロジェクト



エコ・パワー社概要

資本金	71億円
風車数	157基 (23地域)
発電能力	21万1千kW
業界シェア	約6% (第3位)

(2017年9月末現在)



事業拡大と環境貢献の両立へ

当社グループは国内風力発電事業のパイオニアであるエコ・パワー社を2010年にグループ化し風力発電事業に本格参入いたしました。

風力発電事業は、2012年7月にスタートした固定価格買取制度 (FIT) により20年間にわたって売電価格が安定していることから業績面も好調に推移しています。経済産業省では、環境に優しい再生可能エネルギーの普及をめざしており、2030年における国内電源構成における風力発電比率が2015年比較で約3倍の1,000万kWになると想定されています。風力発電事業は、今後も安定収益源として更なる成長が期待されているものの、適地選択や環境アセスメントなどに高度な専門性が要求されるため、参入できる業者が限られるという特性を持っています。

このような事業環境を背景に、当社グループでは、開発から建設、運営、メンテナンスをグループ内で一貫して行う体制で90%を超える高い利用可能率を実現し、効率的な電力供給を可能としています。風力発電所を全国に展開しており、地域による風況変動に影響されにくく、安定して収益を確保することができるのも当社グループの特徴です。

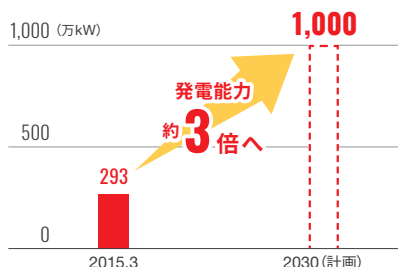
同時に国産のクリーンなエネルギー供給の拡大により、エネルギー自給率の向上やCO₂排出量の削減にも貢献しています。

持続的な成長をめざして

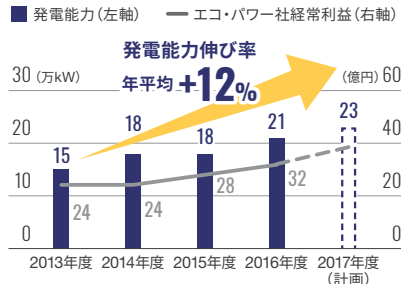
エコ・パワー社は、23地域、21万kW(約11万世帯相当)の発電能力を有し、業界シェア第3位に位置しています。エコ・パワー社では更なる発電能力の拡大を進めており、2017年2月には度会ウィンドファームの第1期エリアで運転を開始しました。度会ウィンドファームは三重県度会町に立地する南勢地域初の大型風力発電所で、14基の風車により2万8千kW(約2万世帯相当)の発電能力を有しています。2019年春には第2期エリアの運転開始を予定しており、総発電能力は5万kW(約3万5千世帯相当)に拡大します。更に北海道や東北地方での風力発電所建設に着手しており、需要拡大の見込まれる市場での安定収益確保にむけて事業を展開しています。

今後は、洋上風力の立ち上がりが見込まれており、国内でも2015年度には洋上風車のFIT価格が36円/kWhに設定されるなど事業環境は整いつつあります。エコ・パワー社では将来の成長機会を確保すべく秋田港・能代港エリアでの洋上風力事業へ出資し、他社と共同で事業を推進していく方針です。陸上風力発電の拡大に加えて、洋上風力発電のプロジェクトへ参画し、長期的な事業拡大をめざしていきます。

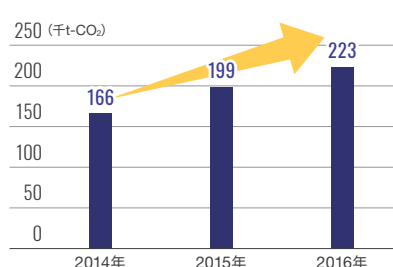
全国風力発電能力の見込み



コスモエネルギーグループ風力発電能力の推移



コスモエネルギーグループCO₂排出量削減の推移



※2015年11月経済産業省「再生可能エネルギー導入促進に係る制度改革について」をもとに当社作成



石油開発事業

Oil Exploration and Production Business

主な
グループ会社

コスモエネルギー開発
アブダビ石油／カタール石油開発
合同石油開発(持分法適用会社) 他

当第2四半期の概況

ドバイ原油価格(2017年1-6月平均51ドル／バレル、2016年1-6月平均37ドル／バレル)の上昇に伴い、売上高は251億円(前年同期比48億円増収)、セグメント利益は90億円(同27億円増益)となりました。

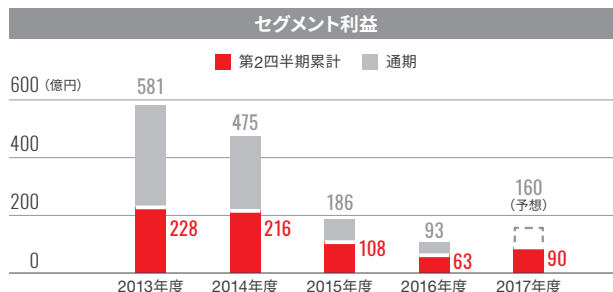
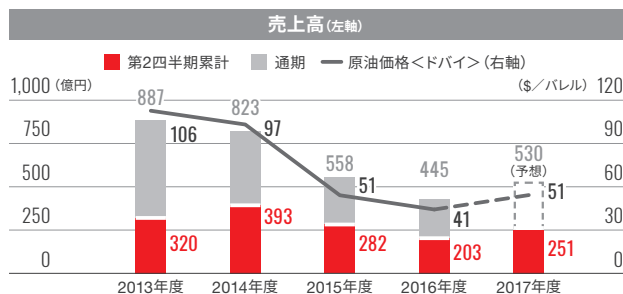
今後の見通し

2017年度は原油価格51ドル／バレル(前期は41ドル／バレル)、為替111円／ドル(前期は109円／ドル)を前提に、売上高は530億円(前期比85億円増収)、セグメント利益は160億円(同67億円増益)を計画しています。2017年11月に生産開始したヘイル油田は順調に生産量を伸ばしております。2018年度はヘイル油田がフル生産に達することで石油開発操業3社の合計生産量は2016年度対比で約1.5倍に達し、単位当たり操業コストの大幅な低下が見込まれています。



リグ(坑井掘削装置)を用いた
石油掘削の様子

	2017年第2四半期	2017年度(計画)
売上高	251 億円 (前年同期比 +48億円)	530 億円 (前期比 +85億円)
セグメント利益	90 億円 (前年同期比 +27億円)	160 億円 (前期比 +67億円)



石油事業

Petroleum Business

主な
グループ会社

コスモ石油 / コスモ石油マーケティング / コスモ石油販売
コスモ石油ルブリカンツ / 総合エネルギー
ジクシス (持分法適用会社) / キグナス石油 (持分法適用会社) 他

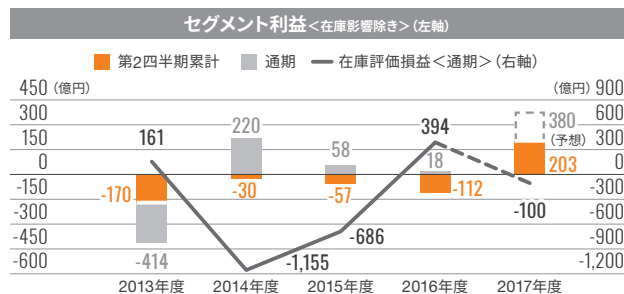
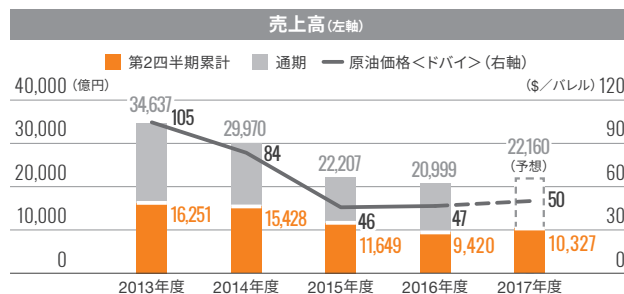
当第2四半期の概況

国内製品販売数量の増加等により売上高は1兆327億円 (前年同期比907億円増収) となりました。在庫影響を除くセグメント利益は、製油所における安全操業・高稼働の実現に加え、業界再編や高度化法対応により国内需給が改善する中で適正マージンを確保したことにより前年同期比315億円増益の203億円となりました。

今後の見通し

当第2四半期の実績を織り込み、2017年度の売上高は2兆2,160億円 (前期比1,161億円増収) を見込んでおります。在庫影響を除いたセグメント利益は、当第2四半期で製油所における安全操業・高稼働の実現や業界再編、高度化法対応により国内需給が改善する中で適正マージンを確保したことに加え、昭和シェル石油グループとの事業提携等により、前期比362億円増益の380億円を計画しております。2018年度には千葉製油所でのJXTGエネルギーとの共同事業 (JV) シナジーの創出や、3年後を目標としたキグナス石油への燃料油供給の開始等、石油事業の競争力強化に向けた取り組みを進めています。

	2017年第2四半期	2017年度 (計画)
売上高	1兆327億円 (前年同期比 +907億円)	2兆2,160億円 (前期比 +1,161億円)
セグメント利益 (在庫影響除き)	203億円 (前年同期比 +315億円)	380億円 (前期比 +362億円)





石油化学事業

Petrochemical Business

主な
グループ会社

丸善石油化学/コスモ松山石油/CMアロマ
ヒュンダイ・コスモ・ペトロケミカル (HCP) (持分法適用会社) 他

当第2四半期の概況

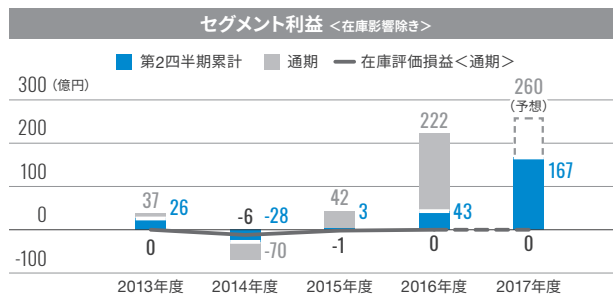
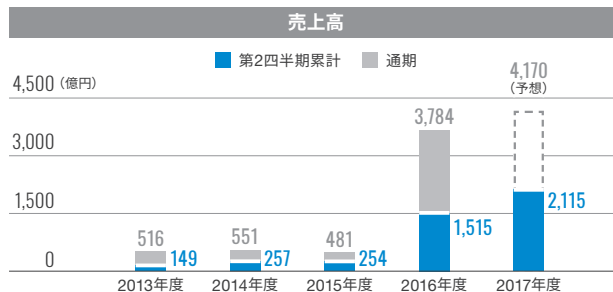
石油化学市況が堅調に推移するなか、丸善石油化学での定期修繕影響解消に伴う販売量増加等により、2017年度第2四半期の売上高は2,115億円(前年同期比600億円増収)となりました。在庫影響を除くセグメント利益は、前年同期比124億円増益の167億円になりました。

今後の見通し

2017年度の売上高は、第2四半期の実績を織り込み4,170億円(前期比386億円増収)、在庫影響を除いたセグメント利益は260億円(同38億円増益)を計画しております。

エチレンなどの石化市況は堅調に推移しており、国内最大規模のエチレン生産能力を持つ丸善石油化学、アジア最大級のパラキシレン製造装置を保有するヒュンダイ・コスモ・ペトロケミカル(HCP)の両社において高稼働を維持する見込みです。引き続き石油精製事業とのシナジー、荒川化学工業と水素化石油樹脂の共同事業化の検討など、競争力強化に向けた取り組みを進めています。

	2017年第2四半期	2017年度(計画)
売上高	2,115 億円 (前年同期比 +600億円)	4,170 億円 (前期比 +386億円)
セグメント利益 (在庫影響除き)	167 億円 (前年同期比 +124億円)	260 億円 (前期比 +38億円)



その他事業

(再生可能エネルギー事業)

Other Business

主な
グループ会社

エコ・パワー／コスモエンジニアリング
コスモトレードアンドサービス 他

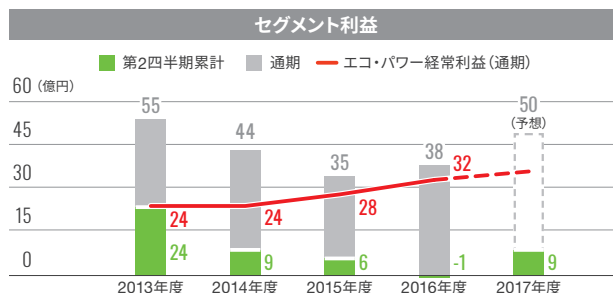
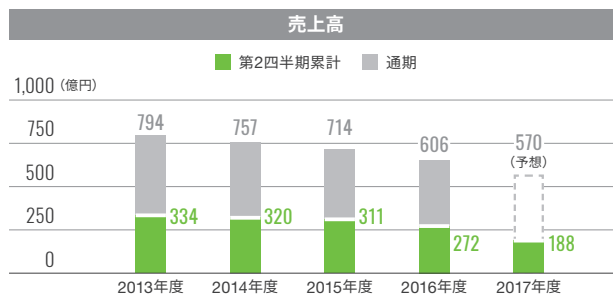
当第2四半期の概況

2017年度第2四半期の売上高は188億円(前年同期比84億円減収)、セグメント利益は9億円(前年同期比10億円増益)となりました。風力発電事業を手掛けるエコ・パワー社における発電能力は、2017年10月に山形県の酒田港宮海・大浜風力発電所の運転開始により、発電能力は約1万kW増加しております。

今後の見通し

2017年度の売上高は570億円(前期比36億円減収)、セグメント利益は50億円(同12億円増益)を見込んでいます。エコ・パワー社では酒田港宮海・大浜風力発電所(山形県)が運転を開始し、2017年度下期には、石狩湾新港風力発電所(北海道)が運転を開始します。これにより発電能力は前期比約8%増強となり、更なる収益力の強化が見込まれております。引き続き、度会2期(三重県)(2万2千kW)、姫神(岩手県)(1万8千kW)風力発電所の新規開発を推進してまいります。また、陸上サイトの拡大に加え、洋上風力発電のプロジェクトへ参画し、長期的な事業拡大をめざしています。

	2017年第2四半期	2017年度(計画)
売上高	188 億円 (前年同期比 △84億円)	570 億円 (前期比 △36億円)
セグメント利益	9 億円 (前年同期比 +10億円)	50 億円 (前期比 +12億円)



コスモ石油エコカード基金

「海を守るために木を植える 森は海の恋人」寄付金の使いみち見学ツアー実施

当社グループでは、「ずっと地球で暮らそう。」を合言葉に、コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」とコスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」会員（以下エコカード会員）の皆様と共に、コスモ石油エコカード基金を2002年4月にスタートし、国内外で地球環境貢献活動を展開しています。

2017年8月にはエコカード会員の皆様に活動の進捗をご覧いただくため、コスモ石油エコカード基金で支援している、NPO森は海の恋人が展開する「海を守るために木を植える 森は海の恋人」プロジェクトの寄付金の使いみち見学ツアーを実施しました。



気仙沼湾の見学・ひこばえの森の見学、植樹体験

「第25回コスモわくわく探検隊」実施

コスモわくわく探検隊は、当社グループが自社の事業特性から、企業市民として広義の車社会への還元を目的とし、1993年より毎年行っている社会貢献活動で、独立行政法人自動車事故対策機構友の会に登録している交通遺児の小学生を対象としています。プログラムの企画・運営には、毎年全国から自発的意志で集まったコスモエネルギーグループ社員が携わっており、子どもたちに自然やたくさんの仲間、スタッフとの交流を楽しんでもらうとともに自然環境の大切さを考える機会を提供しています。

第25回となる今年度は、千葉県南房総市の「大房岬自然の家」において2泊3日のプログラムを展開しました。46名の交通遺児の小学生が参加し、岬探検やウミホテルの観察、竹を切って作った釣竿での魚釣りやビーチコーミング等を体験しました。

当活動のプログラム運営にあたってはNPO千葉自然学校の方々にご協力をいただきながら、全国から参加した当社

グループの社員スタッフ24名が中心となり、事前研修を経て子どもたちの活動を全面的にサポートし、安全と健康管理に努めました。



コスモわくわく探検隊 参加者

当社の活動が評価をいただきました。

FTSE Blossom Japan Index構成銘柄に選ばれました

当社は、世界最大の運用資金であるGPIF^{※1}が日本株のパッシブ運用^{※2}指数として新たに採用したFTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄となりました。これは、FTSE Russell^{※3}が新たに立ち上げたインデックスで国際的なESG基準である環境・社会・ガバナンスの観点においてパフォーマンスが優れた日本企業を評価するものです。

また、当社は世界の代表的なESG（環境、社会、ガバナンス）投資指数である「FTSE4Good Index Series」に、日本の石油会社として初めて採用された2003年以来、15年連続で構成銘柄となっています。



FTSE Blossom
Japan



FTSE4Good

- ※1 GPIF:年金積立金管理運用独立行政法人（日本の公的年金のうち、厚生年金と国民年金の積立金の管理・運用を行っている世界最大の年金資金）
- ※2 パッシブ運用:市場インデックス（TOPIX・MSCI等）と連動する値動きを目的としている運用手法
- ※3 FTSE Russell:英ロンドン証券取引所グループに所属し、インデックスの構築と管理などを世界規模で展開する大手プロバイダー

情報開示（ディスクロージャー）優良企業 石油・鉱業部門 第1位に選定

当社は公益社団法人日本証券アナリスト協会主催の「第23回アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において石油・鉱業部門の第1位に初めて選ばれました。

当社の経営陣のIR（投資家向け広報）に対する積極的な姿勢、投資家・アナリストの関心に即した情報開示、各種説明会の積極的な開催、IR部門による十分かつ正確な情報開示が高く評価され、今回の選定になりました。

引き続き、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様には有用な情報を適時適切に開示してまいります。

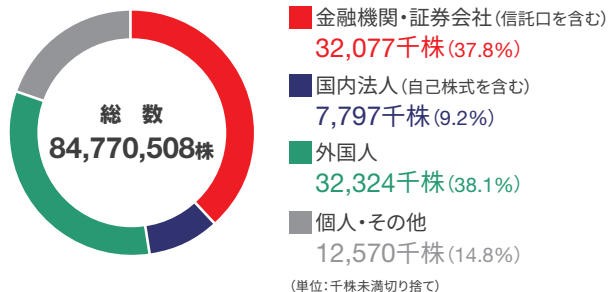


公益社団法人
SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

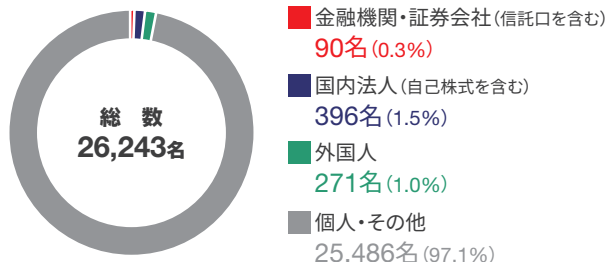


ディスクロージャー優良企業表彰式にて
（桐山社長（左）と日本証券アナリスト協会 新芝会長）

発行済株式

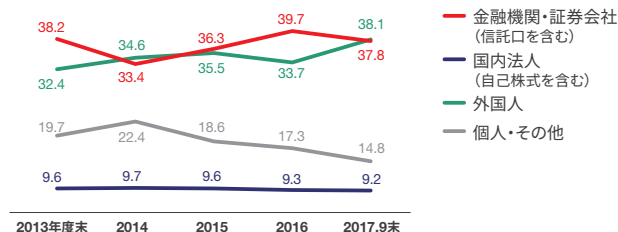


株主数



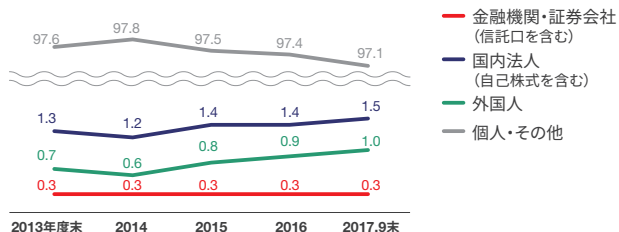
発行済株式数の所有者別推移

(単位:%)



株主数比率の推移

(単位:%)



大株主 (2017年9月末現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
Infinity Alliance Limited (インフィニティ アライアンス リミテッド)	17,600	20.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	6,227	7.34
株式会社みずほ銀行	2,522	2.97
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,254	2.65
関西電力株式会社	1,860	2.19
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1,580	1.86
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,580	1.86
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,579	1.86
三井住友海上火災保険株式会社	1,567	1.84
コスモエネルギーホールディングス取引先持株会	1,511	1.78

※小数点第3位を切り捨て ※持株比率は自己株式を控除して計算しております。なお、自己株式には、「役員報酬BIP信託」により信託銀行が所有する株式は含まれておりません。

会社概要

商号	コスモエネルギーホールディングス株式会社
証券コード	5021
本社所在地	〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号 電話(03)3798-3180
発足年月日	2015年(平成27年)10月1日
資本金	400億円
事業内容	総合石油事業等を行う傘下グループ会社の経営管理 及びそれに付帯する業務
沿革	1986年4月1日大協石油株式会社、丸善石油株式会社 及び両社の精製子会社である旧コスモ石油株式会社の 3社が合併し、コスモ石油株式会社が発足。 1989年10月1日アジア石油株式会社を合併。 2015年10月1日コスモエネルギーホールディングス 株式会社が発足。
主要 取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社三井住友銀行

コスモエネルギーグループの主要データ

特約店数	223店
支店	東日本支店、関東支店、中部支店、関西支店、西日本支店
製油所	千葉、四日市、堺

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金 支払株主確定日	3月31日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故、そ の他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経 済新聞に掲載します。 公告掲載URL http://ceh.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html
上場取引所	東証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

見通しに関する 注意事項

この「事業のご報告」に含まれる将来の業績などの記述は、現時点における情報に基づき判断されたものです。こうした記述は経営環境の変化などにより変化する可能性があり、当社としてその確実性を保証するものではありません。



サービスステーション コスモSSのご紹介

関西砒油株式会社
セルフステーション大内

お客様と良い関係を築くために一人ひとりの接客力を強化

多くのガソリンスタンドやカーショップが林立するエリアで、当社は早くからセルフ化、車検、中古車販売などに取り組んできました。セルフステーション大内は2017年1月、ビークルショップとしてグランドオープン。トータルカーケアサービスを提供する新しいガソリンスタンドへと生まれ変わり、カーリースの契約台数を順調に伸ばしています。現在は、来店されたお客様に対する接客率100%をめざし、スタッフ全員が各種サービスを説明できるよう勉強会の開催やタブレット活用を進めています。激しい競争を勝ち抜くには、現場主導で従業員が自発的に提案できる風土を醸成することが大切です。接客サービスを強化し、長く利用していただけるサービスステーションにしていきます。



関西砒油株式会社
セルフステーション大内

所在地

山口県山口市 大内矢田
字上大野465-2

営業時間

24時間営業

C's MAIL

 シーズ・メール
Vol.83

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様、心の通った情報を提供したいという当社の願いをこの名前に託しています。

発行
コスモエネルギーホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション部 IR室
〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL (03) 3798-3180 FAX (03) 3798-3841

<http://ceh.cosmo-oil.co.jp/>



IRモバイルサイト

モバイルサイトへは、このQRコードからアクセスできます。



IRメールマガジンが、PCでも
ご利用いただけるようになりました

最新IRニュースをお届けいたします。下記URLにPCからアクセスのうえ、ご登録ください。

https://cosmooil.co.jp/ir_mail_magazine/

12月中に新規登録いただいた方から抽選で1,000名様に、Amazonギフト券1,000円分をプレゼント!

表紙写真について

2017年2月に運転開始した度会ウィンドファーム第1期エリアの様子。14基の風車により2万8千kWの発電能力(約2万世帯相当)を有しております。

UD
FONT

